

「はりま」飼養管理マニュアル

I 「はりま」生産に当たって

このマニュアルは、生活クラブ生協組合員の皆様の、「国内の環境条件や気候風土などへの適応性のある鶏肉生産」を、「原種鶏から国産」という声、また、「飼料や飼い方にもこだわった鶏肉生産」という声に応えるために必要となる飼養管理方法などについてとりまとめたものです。

従って、性能指標に関しては、一般ブロイラー飼養管理での成績とは異なります。

以下に、一般ブロイラー飼養管理とは大きく異なる項目について、説明します。

項目は、次の4つ。鶏舎、収容密度、出荷日齢及び飼料です。

1. 鶏舎は開放平飼い

鶏舎構造は、鶏を健全な環境で、健康に育てるため、外気や太陽が直接鶏に届く開放鶏舎とし、また鶏が自由に運動できるように平飼いであります。

2. 収容密度は、出荷時で35羽以内/坪

※現在35羽以内の収容を、鶏の生活環境(保温)との関連で冬期については坪40羽について試験中です。

鶏にストレスを与えず、かつ十分な活動をさせるため適切な収容密度を守ります。

ただし、冬期間の育成では鶏の温度調節機能を補助するための対策が必要です。室温を保ち、雛の生活環境を守るには収容密度による温度調整も必要です。

3. 出荷日齢は、60日齢以上

「はりま」は、一般のブロイラーに比べ、長期間飼育できる適性があり、且つ飼いやすい鶏種です。出荷日齢は、肉の締まりが良くなり、かつ目標体重に到達させるため60日齢以上とします。

4. 給与飼料は、指定配合飼料

飼料の主要原料であるトウモロコシ、大豆粕は、NON-GMO仕様。また、飼料原料は徹底した分別管理の中で製造され「はりま」の給与飼料となります。

え付け時や育成初期は雛が食べ易い、克蘭ブル或いはエキスパンダーにします。

給与飼料の栄養水準や切り替え時期は、下表を基準にします。

給与飼料	週 齢	飼料の形態	M E	C P
前 期	0～2週	クランブル (エキスパンダー)	2, 950 kcal/kg	22. 5%
後 期	2～4週	マッシュ	3, 100 kcal/kg	19. 0%
仕上げ	4週以降	マッシュ	3, 080 kcal/kg	16. 5%

！ なお、原則として、抗生物質等の使用は全期間を通じて行いません。

II 防疫対策

病気を鶏に引き起こさないために、以下のことを実施しましょう。

1. 鶏舎周辺への消石灰散布。
2. 鶏舎ごとの長靴の履き替え。できれば着衣の着替えも行うとより良い。
3. 飼料搬入車への注意。
飼料搬入に当たっては、消毒装置により、特にタイヤの消毒を入念に。
4. 鶏舎の金網清掃はこまめに。できれば消毒薬の散布。
5. 飲水には水道水を使用。やむを得ず、沢水等を利用する場合は、塩素滴下を行う。
6. 鳥獣害の対策

渡り鳥、カラス、犬、猫、キツネ、タヌキ、イタチ等による、被害を防止するため、防鳥網や金網により舎内侵入を遮断してください。破損がある場合は、すみやかに補修して下さい。

また、ネズミによる食害やサルモネラ汚染の防止にも注意が必要です。

※ネズミの駆除方法

- (1) ネズミの進入経路を確認し封鎖する。
- (2) 粘着シートを仕掛ける。
- (3) 上記で効果が上がらない場合は、殺そ剤を使用する。

ただし、鶏飼養期間中は殺そ剤は使用しないこと。

使用は空舎期間中に限定し、雛の次期導入時には完全に撤去すること。